

令和5年度 学校関係者評価・結果シート

分野	評価項目	学校の評価	各委員評価 (自己評価の適切さ)				適切さ (%)	改善策	各委員評価 (改善策の適切さ)				適切さ (%)	各委員による意見
			a	b	c	d			a	b	c	d		
ゆうばり小学校	教育目標の具現化と学校運営	1 学校運営に対する方針・目標が明確であり、計画的に取り組んでいる。	A	A	A	A	100	・年度の重点に対しては教職員の指導意識を高める。一月初旬プログラミングの分掌作成から学校経営プランニングシート作成により自分事化を図る。 ・協働性を強化するため、分掌即会の充実から企画委員会の機能を強化する。	A	A	A	A	100	・授業中の雰囲気は良く、素晴らしい。 ・3について 楽しく学校に来る子どもが多いと思うのでAでも良いと思う。
		2 教職員は共通理解のもと、組織的・統一的に教育活動を展開している。	A	A	A	A	100	・協働性を高めるため、学年間の動きからブロック間の動きを強化を図る。(協議型からの脱却) ・複数指導を基盤とするクロスチェック機能の充実を図り、多くの視点から対応に当たる。(いやがて、多様な大人の力を結集した教育を展開)	A	A	A	A	100	
		3 学校生活が充実によって、魅力のあるものになるよう、教育活動が工夫・改善されている。	B	A	A	A	100	・地域の教育資源を積極的に活用し、実践をベースに学びと生活の結合した深い学びを展開し、「学びこころの楽しさ」を体験させる。 ・特別活動の充実を図る。特に、行事・集会活動は内容を精選しながらも、充実感・達成感を重要な視点とする。	A	A	A	A	100	
		4 教育の質を高めるため、働き方改革を積極的に推進している。	B	A	A	A	100	・校務支援システムの全面活用による業務の負担軽減。 ・業務の分担・シェアを実施し、個人にかかる負担の軽減を図りながら協働性を高め、チームでのやりがいに繋げる。	A	A	A	A	100	
少中中学校	主体的に学び、最後まで生徒の育成	1 学校運営に対する方針・目標が明確であり、計画的に取り組んでいる。	A	A	A	A	100	地域・保護者に向けては学校だけでなく、教職員に対しては校長室よりなどで、本校が掲げる教育の目的・目的を共有してきた。引き続き、各種通信等の充実を図り地域・保護者の皆様への情報発信に努め、連携・協働できる学校づくりを進める。	A	A	B	A	91.7	・4について 「働き方改革」のためでもある、ICT化も先生の見られずばらばらと思うが、資料の作成時間等を考えると先生の苦勞ははかり知れないので、本当に「働き方改革」と言えるのでしょうか？ ・先生たちの負担をもっと減らしてあげてほしい。 ・価値観が流動的な中で目標設定・実現は大変かと思いますが、ご尽力ください。
		2 子どもの幸せづくりを支援する考え方のもと、子どもを中心に置いた教育活動に、組織的に取り組んでいる。	B	A	A	A	100	よりよい幸せに生きる生徒の育成を重点に子どもに寄り添った指導・実践を進めてきた。引き続き、子どもたちにとって、学校が安心して自己実現を図れるよう心理的安全性の確保された学びづくりを進める。	A	A	A	A	100	
		3 質の高い教育活動の実現に向け、特色ある教育課程を編成・実施している。	B	B	A	A	91.7	地域人材や教育資源の有効活用により、社会に開かれた教育課程の実現に力を添えていただいている。引き続き、教育資源を効果的に組み合わせ、目的を共有した教育課程を編成・実施に努める。	A	A	B	A	91.7	
		4 教職員が協働でやりがいをもって勤務できるよう校務支援システムを活用した「働き方改革」を推進している。	B	B	A	A	91.7	ICT及び校務支援システムの活用が進み、業務の省力化が図られている。一方、学校経営評価では、教職員のやりがいに関する項目が低くなっている。真にやらなければならない業務以外で減らせるものは、課題に応じて短期的に長期的に振り分けが図られ、教育の質の向上を図る取組でやりがいを増進し組織づくりを進める。	A	A	A	A	100	
ゆうばり小学校	生きる力を育む教育の推進 (MD)	5 確かな学力の定着に向けて、分りやすい授業になるよう工夫している。	A	A	A	A	100	・習熟・定着の確保に努め、一人一人の状況を踏まえて授業の個別化を図る。(指導の補充) ・協働的な学びを重視し、自分の学びを表現することで、学びを振り返る力を高める。	A	A	A	A	100	・家庭学習連携〇〇達成等のポスターを作成して掲示している所がすばらしいと感じました。 ・8について iPad持ち帰りは必要なのではないですか？土日にしかできない 体験をした方がよいのでは？ ・どの学年も、楽しく授業に集中して日頃の先生方の努力が伝わりました。
		6 主体的・対話的で深い学びの実現に、どの授業にも意図的に発表(表明)の機会を設けている。	B	A	A	A	100	・児童の活動(思考・作業含む)時間を確保するため、対話/対話力を高める。 ・子ども自ら学びをアウトプット(発表)したくなる授業の展開を目指す。 ・iPadを効果的に活用し、学習意欲を高める。	A	B	A	A	91.7	・どうせ持ち帰らなければならぬのであれば、iPadで楽しく家庭学習が出来るようにしてほしい。 ・オンライン英会話は主体的・対話的で深い学びといえるのか。授業参観の際に、フリーズしている子どももいて、心配になった。
		7 TT指導・少人数指導や休み時間を活用した補充学習など、個に応じた指導が実施されている。	A	A	A	A	100	・専科指導や算数における少人数指導等の充実を継続し、担任との連携で個別に対応する。 ・学習指導や支援活動の効果的な活用を図る。 ・iPadのデジタルリソースを活用し、個々の学習履歴の把握や個別学習に役立てる。	A	A	A	A	100	
		8 家庭や家庭学習、ファミ・スタWEEKの実施により、学習習慣の確立に向けて取り組んでいる。	A	A	A	A	100	・ファミ・スタWEEKを継続し、家庭との連携を常に確認していく。(年4回) ・家庭学習紹介コーナー等で交流を図り、取組効果を高める。 ・毎週金曜日をiPad持ち帰りの日とし、土日をiPad学習日とする等家庭学習の活性化を図る。	A	B	A	A	91.7	
少中中学校	主体的に学び、最後まで生徒の育成	9 教職員はわかりやすい工夫した授業を行っている。	B	A	A	A	100	学習指導要領のもと身に付けさせない資質・能力を明確にし、指導方法の工夫改善に努め、「できた」「わかった」など達成感を感じられるような授業づくりを進める。引き続き、子どもを主体とした授業づくりで主体的な学びが結びつくよう授業改善の充実を図る。	A	A	A	A	100	・理科の先生の授業、とてもわかりやすかった。 ・主体的に学ぶためには内発的な動機が必要だと思います。強制ではない「学ぶ楽しさ」を実現してほしい。 ・オンライン英会話は主体的・対話的で深い学びといえるのか。 ・食の大切さや社会問題など、学校でどのように現実を伝えようとしているのか、大人も一緒に考える機会があるといい。授業参観などで、そのような内容は取り扱えないのか。
		10 TT指導や算数等少人数指導など個に応じたきめ細かな指導を行っている。	B	A	A	A	100	・教科書と英語科指導方法工夫改善加配教員による少人数指導別指導、TT指導を適切に行い、一人一人の状況に応じた指導を行った。次年度の加配状況より、引き続き丁寧な指導を行っている。	A	A	B	A	91.7	
		11 主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業過程に生徒同士による探求の学びの機会を設定している。	B	A	A	A	100	・公開授業で実践力を高める機会を設けることができた。引き続き、「主体的・対話的で深い学び」の観点での授業改善を進め、知識・技能の定着はもうまもなく、身に付けた知識・技能を活用して思考力を深めながら、次の学びに向かう力に繋がらるよう、今求められている資質・能力を踏まえ授業づくりを小中合同で進める。	A	A	A	A	100	
		12 「ゆとり保証」の実施など、自律的な学習習慣の確立に向けて取り組んでいる。	B	B	A	A	91.7	ゆとり保証の実施により、自ら学びに向かう姿勢が育っている。引き続き、授業と連動した個別学習やiPadの活用などにより自律的な学習への意欲を高めることで学習習慣の確立を図る。	B	A	B	A	83.3	
ゆうばり小学校	豊かな心を育てる教育の推進 (徳)	9 共感的理解のもと、一人一人の特性と実態に応じたきめ細かな教育を行っている。	A	A	A	A	100	・教室マルチコメントについての理解を深め、根拠を基とした指導の展開をする。 ・学習態度を基に、クロスチェック機能の活用、指導者が主となってTT対応をする。 ・保護者と密な情報交流をする。	A	B	A	A	91.7	・あいさつビンゴの取組はすばらしいと感じました。 ・10について 「あいさつしたくない日もあるよね」とも思うが… ・12について SOSを出せない子、たくさんいると思うので色々と強化してほしい。
		10 自分から挨拶をしたり、時間やルールを守ったりするなど、基本的な生活習慣を身につける指導をしている。	B	A	A	A	100	・児童主体の取組を助長する。(あいさつビンゴ等の取組の工夫) ・朝の情報交流や生徒指導委員会の充実を図り、組織化を益々充実させる。 ・適切な挨拶を活用して、家庭と連携する。	A	A	A	A	100	
		11 豊かな心や集団生活の育成のため、教育活動を充実させ、組織的・統一的な取り組みを行っている。	A	A	A	A	91.7	・hyper-QUの分析力を高め、ピアサポートと連動させた指導を充実させ、よりよい関係づくり、積極的な集団づくりを進める。 ・教育相談連携の結束交流を設け、日常的な指導へフィードバックさせる機会を持つ。	A	A	A	A	100	
		12 いじめや問題行動、事故未然に防ぐ努力をし、保護者と密に連携するなど組織的に対応している。	B	A	A	A	100	・日常的な声掛けから小さな変化を見逃さず、職員間で共有し、組織的な対応を継続する。 ・SOSを出せる教育の展開を心がけ、きめ細やかな対応をする。 ・家庭・地域との情報交流を密に、子育て・教育の協働性を高める。	A	A	A	A	100	
少中中学校	互いに協力し、高め合う生徒の育成	9 生徒一人一人の思いに寄り添い、よさを伸ばす指導をしている。	B	-	A	A	100	教育相談等の充実により一人一人の生徒の声を丁寧に受け止めながら、生徒の自己指導能力の育成に努めた。日常的な発達支援的指導をこころがけ、生徒の「やりたい自分」探しを後押しする支援を充実させる。	-	A	B	A	88.9	・常に仲良くではなく衝突から身をもって学ぶ機会に転換できる場を用意してあげてほしい。
		10 「つく指導」や教育相談の充実により、生徒理解に基づいたきめ細かな対応をしている。	B	-	A	A	100	全校体制で「つく指導」を徹底してきた。生徒理解に基づいた生徒への言葉のかけのしかた、生徒の声の受け止め方について、生徒の人格を尊重したかかわりを大切に、「管理」する生徒指導から「寄り添う」生徒指導への転換を図る。	-	A	A	A	100	
		11 ルールやマナーを守り、規律や規範意識を育てる指導をしている。	B	-	A	A	100	規範意識の向上に向け、進級や特別活動などを軸に、自ら実行する生徒の育成に努めた。引き続き、子どもたちの学び・発表から期待する「考え、議論する」道徳授業の充実を図るなど、生徒自らが考え、行動する態度を養う。	-	A	A	A	100	
		12 心理的安全性の確保による積極的な集団づくりのもと、いじめ・不登校の未然防止に取り組んでいる。	B	-	A	A	100	・総和的で居心地のよい集団づくりが心理的安全性の確保された中で、いじめ・不登校の未然防止に取り組んできた。個別の事情で多様なケースがあるが、多様な考えを認め合う学校・学級風土の中で自分のよさに気づき、他者のよさを認めることができるようピア・サポートの考え方を活かしながら集団づくりを進める。	-	A	A	A	100	
ゆうばり小学校	粘り強い心身を育む教育の推進 (徳)	13 全学年で体力・運動能力テストを実施し、実態把握と分析から今後の指導に活かしている。	B	A	A	A	100	・体力の準備運動として、なわびの活用と同時に、新体力テストの種目を毎時取り入れる。 ・PDCAサイクルを短めに設定し、「体力向上週間」を複数実施することで、目標意識を高める。	A	B	A	A	91.7	・13について とてもいいと思う。 ・14について 優秀のつきやすいスポーツにこだわるのはどうなのか？ ・家庭で「食」の大切さ、ありがたさを子供に一生懸命伝えて、教えているのですが、中々上手に伝える事ができず苦戦しています。小学校の授業の中で「食」についての学びをする授業をしっかりとっていただけたらと思います。
		14 チャレンジ環境を整え、日常的に体力・運動能力を向上させる工夫をしている。	B	A	A	A	100	・チャレンジ環境を体育の総合運動(サキソウ)として、効果的に取り組めるようにする。 ・なわび以外にも、ソフトテニス、ドッチボール等の器具を活用し、遊びながら体力づくりの仕掛けをする。	A	C	A	A	83.3	
		15 日常的な指導の場面で、あらかじめ目標まで取り組む態度の育成に努めている。	A	A	A	A	100	・目標に対する評価は重要点をおさえながら肯定的に言えることを徹底する。 ・児童のステップアップを見逃さない観察眼を養い、適切な肯定的評価を行う。(ピア・サポート)	A	A	A	A	100	
		16 結果だけでなく、過程や努力を認めると、自己肯定感・自己有用感の育成に努めている。	A	A	A	A	100	・認める、助ます雰囲気醸成し、心理的安全性の高い集団づくりを目指す。 ・全教育活動で、トライ＆エラーの精神を大切に、挑戦と一つ一つの積み重ねの大切さを体得させる。	A	A	A	A	100	
少中中学校	ねばり強く実践するべく生徒の育成	13 新体力テストを全学年で実施し、結果の把握、分析を基に保健体育科の授業改善と体力向上に取り組んでいる。	A	A	A	A	100	保健体育科において、全学年で実施している。令和5年度全国体力・運動能力調査では、体力合計で全国より平均値以上となっている。学校により傾向は違うが、引き続き、体育科の授業のみならず、徒歩通学の奨励など日常的な体力向上への取組を進める。	A	A	A	A	100	・13について 小学校ではなわびを活用しての、中学校でも活用してみてもいい？
		14 保健指導による望ましい生活習慣の定着や健康意識を適切に行う態度の育成に取り組んでいる。	A	A	A	A	100	養護教諭による保健指導の発信により、望ましい生活習慣の定着や健康意識の向上に取り組んできた。家庭でのスマートフォン利用の時間制限などについては生徒が持っていることから、家庭と連携して生活リズムの確立を期待している。	A	A	A	A	100	
		15 学校給食を教材とした望ましい食習慣の形成等、家庭・地域等と連携した食育を推進している。	B	A	A	A	100	栄養教諭による給食だより発信により、望ましい食習慣の形成に努めた。引き続き、食に関する指導の充実や、家庭授業との教科等横断的な視点により食育の充実を図る。	A	A	A	A	100	
		16 外部講師による避難訓練、防災・防犯教育、薬物乱用防止教育、情報モラル教育等目的を共有しながら取り組んでいる。	A	A	A	A	100	外部専門機関との連携により安全教育を推進してきた。より効果的な取組に向け、学校の意図を伝えながらご支援いただく方々の専門性を効果的に活用するよう事前の調整・コーディネートを充実させる。	A	A	A	A	100	
ゆうばり小学校	地域に開かれた教育課程の推進(地域・共生)	17 保護者・地域との連携を十分図り、協働性を高めるなど信頼づくりを図っている。	A	A	A	A	100	・コロナ禍の影響を踏まえ、ZoomやMeetを活用して教育活動の公開を図る。 ・学校の方針や取組について、相談、行事挨拶や各種通信等を活用して積極的に発信する。	A	A	A	A	100	・挨拶など地域・行政一体となって取り組めることによりよい。 ・19について「声を聴く」は日頃からのつながりに勝るものはないと思います。そうした機会を増やすしかないか… ・地域の方が(色々な方面で)関わり、良い事だと思います。
		18 地域の人的・物的教育資源を活用した「ふるさと学習」を展開し、校外学習の充実を図っている。	A	A	A	A	100	・「少原学」を5分野に整理するとともに、その構成材を教育課程の中に積極的に位置づける。 ・地域の大人、多様な職種の人による学びを充実させ、「地域がかりで子どもを育てる」視点を醸成させる。	A	A	A	A	100	
		19 保護者・地域の声を聴く場を設け、懇話、アンケートなどで設定し、学校改善に活かしている。	A	A	A	A	100	・2回の学校評価アンケートや懇話の場を設け、改善すべき点は迅速に改善する。 ・学校運営協議会を活用し、地域との関わりを深める。課題・要望に対しては、企画委員会等を機能させ、迅速に対応する。	A	B	A	A	91.7	
		20 園・小・中のスムーズな接続を図るため、交流・協働体制を構築している。	B	A	A	A	100	・小中一貫教育による9年間を見通した「学びの連続性」を具体化する。(系統図、全体計画) ・園との交流は相互訪問等の機会を設け、情報交流を強化し、交流事業も積極的に実施する。	A	A	A	A	100	
少中中学校	地域ともにもある学校づくりの推進	17 地域の人材や教育資源を活用し、地域社会と連携した「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて取り組んでいる。	A	A	A	A	100	市内外の教育資源・地域人材を効果的に組み合わせてふるさと・キャリア学習を進めている。引き続き、地域課題に主体的にかかわり探求の学びを進められるよう学習活動を展開する。	A	A	B	A	91.7	・地域住民として関わる場面が少ないと感じる。(忙しそうでアプローチをためらってしまう。)
		18 学校運営協議会(コミュニティ・スクール)と目指す理念を共有し連携・協働を強化している。	B	A	A	A	100	年間を通して連携・協働を進めてきた。学校との協働を一層深めるため、目的の共有を重視した地域との関係づくりを進める。	A	A	A	A	100	
		19 学校関係者評価を含む学校評価の工夫と、評価結果を踏まえた改善に取り組んでいる。	B	A	A	A	100	年2回の学校評価の実施し、評価結果を踏まえた即時の改善に結びつけた。また、新たに学校運営協議会を行い、教職員による学校経営に対する自己評価を充実させ、次年度の学校経営方針に反映させることができた。引き続き、検証改善サイクルの充実を図る。	A	A	A	A	100	
		20 小・中・高校間のつながりや児童生徒の相互交流、体験入学などによる学校間連携の強化に取り組んでいる。	A	A	A	A	100	小中一貫教育推進においては、小・中一貫教育効果が得られるようこれまでの取組を大切にできることから進めていく。高校とは、個別関係などを通して入学者選抜及び入学後の学校生活を安心して迎えられるよう連携を深めた。引き続き、小・中・高の接続を密にしている。	A	A	A	A	100	

【評価の判断基準】
 ○自己評価の A 教職活動等が十分に達成された
 B 教職活動等が概ね達成された
 C 教職活動等の達成状況がやや不十分であった
 D 教職活動等が達成されなかった
 ○学校関係者 A 適切である
 B 概ね適切である
 C やや不適切であり、改善の必要性がある
 D 適切に欠け、改善を要する